

第4回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和4年11月7日（月）10:00～11:30

■場 所：周南市 シビック交流センター交流室1

■出席者：以下表の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分	出欠
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者	出席
周南公立大学 福祉情報学部	准教授	児玉 満		出席
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明		欠席
徳山商工会議所		船井 辰郎	関係団体 を代表する者	出席
周南市社会福祉協議会	業務課課長補佐	山本 多恵		出席
周南市体育協会	事務局主任	砂田 優一郎		出席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織 を代表する者	欠席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	監事	黒神 充久		出席
山口県未来技術活用統括監		田中 貴光	オブザーバー	出席
周南市 ICT 推進アドバイザー		藤原 孝幸		出席

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 委員のうち、6名が参加しているため、周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第6条の規定により、本会議が成立していることを報告させていただく。
- ・ 会議の開催にあたり、本市企画部長川口よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部長 川口)

- ・ 本日は大変お忙しいところご出席いただき感謝する。
- ・ 本会議は、科学技術などの急速な発展に対し、社会的課題の解決と経済的発展の両立を実現するため、先端技術やビッグデータ等を積極的に活用したスマートシ

ティの推進に向けて、委員の皆様のご意見をいただきながら、官民が一体となってスマートシティの実現を目指すことを目的に設立された。

- ・ 今年2月に第3回を開催し、本日は第4回となる。昨年の協議会では、モデル地区におけるワークショップの結果、いただいたご意見に基づく取組方針、スマートシティの実現に向けたまちづくりの進め方等について協議いただいた。
- ・ 本日の協議会では、昨年度の振り返りとともに、今年度実施する予定の協働プログラムの方向性やスマートシティを推進する体制としてのコンソーシアム等を議題としている。皆様の忌憚ないご意見をいただきたい。

<委員の紹介と委員の挨拶>

(事務局)

- ・ 昨年度ご出席いただいていた周南市社会福祉協議会の金池様に代わり、同じく周南市社会福祉協議会の山本多恵様が委員としてご出席いただいているため、一言ご挨拶をお願いしたい。

(山本委員)

- ・ 前任の人事異動に伴いまして、委員の交代ということになる。皆様方のご意見を参考にさせてもらいながら、少しでもお力になればと思っているので、どうぞよろしくお願いしたい。

(事務局)

- ・ これからの進行は羽藤会長にお願いする。

3. 議題

(会長)

- ・ 昨年度までは頑張ってみんなでワークショップをし、周南市のスマートシティとして、どのようなやり方があるのかを共有してきた。
- ・ 川口部長からも話があったように、今年度はそれを下敷きに、計画を策定するところが重要な目的になる。一步も二歩も、周南市ならではのやり方で・市民中心で、と思っているので、今日も是非よろしくをお願いしたい。
- ・ 議題は全部で4つある。事務局より議題1から説明をお願いしたい。

(事務局)

<オンライン申請、キャッシュレス化、デジタル・ディバイド等、市の取組について説明>

(会長)

- ・ 非常に重要な内容であったかと思う。オンライン化・キャッシュレス化の一方で、デジタル・ディバイドの問題もあるので、そうしたことに、市としてちゃんと対応していこうという話や、ダッシュボードも含めて様々な実験や共同研究が、この周南市で進もうとしているというお話だったかと思う。
- ・ 最後に説明があったシンポジウムについて、各地で様々なスマートシティの事例についてご存知の方々、あるいは実際の先進自治体の方々をお招きして実施する予定である。そういった方々から周南市のスマートシティに関する提言をいただいて、これまで委員からいただいた地元の意見と掛け合わせて、計画に反映させていけたらと思っている。
- ・ この議題については報告ということなので、委員の皆様からのご意見はよろしいか。それでは次に議題2について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

<資料に基づいて今年度事業の活動方針及びスケジュール等について説明>

(会長)

- ・ 説明の中で「我々」という表現が何回も出てきているが、事業自体は事業会社である説明主体がやるのか、それとも市民の方々がやっていくという想定なのか。

(事務局)

- ・ 資料2にも書いているが、市民参加型のスマートシティの取組を調査したところ、市や市の受注をしている事業者が枠組を作り、中のコンテンツ・活動については、住民の方や地元事業者が入っているという形をとっている自治体が多い認識である。枠組を作っていくという形で「我々の」という言葉を使った。
- ・ どちらかという中身をやっていくというよりは、スムーズにそういった事業を行えるような取組をしていくというところを、我々としては提案したいと捉えてもらいたい。

(オブザーバー)

- ・ 8・9ページ目の今年度の方針というところで提示された、デザイン思考やアジャイルに関してだが、スマートシティ推進・DXを活用した市民課題の解決というものは、こういった手法で行われるべきだと思っている。
- ・ 先ほど市民の方という話があったが、ユーザー中心の課題解決の中身をどう考えていくかというところで、デザイン思考のフレームワークを使いながら、どういう課題解決があるかというところでどう取り組んでいくかということだと思う。

- ・ 実際にこの中身を今年度課題に対して、デザイン思考やワークショップを対象エリアの方々に参加いただいて、取り組んでいくという認識であっているか。

(事務局)

- ・ 今回予定しているプログラムは、市民の方々と色々な形でデジタルやアンケートなどアナログも踏まえながら、どうやって進んでいくかというところは一緒に作っていきたいと思っている。仰っていただいたところも踏まえて提案を後ほど説明させていただければと思う。

(オブザーバー)

- ・ スマートシティに取り組む中で、何を KPI に据えるかについて、国でもウェルビーイングの話がよく出てきているかと思う。それを踏まえた上で、リビングラボの話が出てきていると捉えているが、どういったところを成果・KPI として置いてやっていくかというところについて、さらに意識して取組を進めてもらえるといい。

(委員)

- ・ 昨年度ワークショップを開催していた、市から委託をされていた事業者と、本日説明をしている事業者の関係はどうなっているのだろうか。事業年度が変わるたびに事業者が変わるのであれば、心積もりをしておかなければいけないと思っているので、確認させていただければと思う。

(事務局)

- ・ スマートシティのモデル地区に係る業務については、その年その年で内容が異なるということもあるので、毎年度適した事業者を選定して進めている。

(会長)

- ・ 体制が変わったが、昨年度の地元の議論を踏襲することを意識してほしいということだと思う。
- ・ 私も含めて事務局で確認し合いながら、昨年度までの議論を含めて、さらに発展的なことができるように、担当されている事業者も考えていると思うので、ご支援いただきたい。
- ・ 昨年度までの振り返りについては、周南公立大学や徳山工業高等専門学校も含めて、教育機関との関係の中でデータを使った地域づくりの提案や、地元の歴史を大切にしながら、新しいセンシング技術等を使って、緑地のさまざまな活動をみんなでどのように共有していくかが議論されていたかと思う。

- ・ その議論を踏まえた形で今年度の実験の提案と、それに基づいた周南市のスマートシティの計画づくりを進めていくのが基本的な立場かと思う。ぜひこの後の議題についても皆様から意見が欲しい。
- ・ では、次の議題の説明を事務局からお願いしたい。

(事務局)

<資料に基づいて協働プログラム第1弾の位置付け及び企画内容について説明>

(会長)

- ・ 今年度の計画ということで、昨年度のワークショップを踏まえたものかについては正直不安に思うところもあるが、ご提案いただいたということでぜひご意見いただけたらと思う。
- ・ リビングラボについては、お話にあったように周南公立大学で、食などを組み合わせた活動をすでにされているということなので、そういったところは踏まえられているかと思う。
- ・ 去年のワークショップに参加した方々に、この社会実験に参加いただくとか、新しい方がさらに参加していただいて、地元の方の参加を枠組みの中に入れていきたいという話をされていたかと思うが、こういった形で昨年度ワークショップ参加者の方々のご意見あるいは新たな方々がここに参加するということを誘引しているのか、事務局で考えがあればお聞かせいただきたい。
- ・ 参加者が多い方がこうした活動の周知を図れるうえ、良し悪しの判断もぜひそういう方に聞いていくべきだと思うが、何か考えはあるか。

(事務局)

- ・ 次の議題の説明をさせていただくと、その質問に答えやすいかと思う。

(会長)

- ・ そうであれば次の議題でお願いしたい。
- ・ もし他に委員の方からご意見が無いようであれば、次の議題でまとめて一言ずついただけたらと思う。

(事務局)

<資料に基づいてコンソーシアムの構築に向けたステークホルダーの巻き込み方について説明>

(会長)

- ・ 地元のステークホルダーの巻き込み方について説明いただいた。皆様からご意見いただけたらと思うがいかがか。
- ・ 昨年度議論していた地元で盛り上がっていたような話題というよりは、まずはタッチポイントを作っていくって参加してもらい、スマートシティの取組をぐるっと回してみようという実験のご提案かと思う。
- ・ ぜひこういうことをやったらいいのではといったことや、この実験を基にして計画作りに入っていくので、色々意見を言えるとしたらこのタイミングかと思う。スポーツを入れたらどうかや高齢者の方に対することなど、ぜひご意見いただけたらと思うがどうか。

(オブザーバー)

- ・ 昨年度からワークショップ等、議論に参加しており、第3回スマートシティ推進協議会の中でも、ワークショップで得られた課題とデジタル技術の活用のつなぎ合わせというのは、まだまだ工夫をしていく必要があるという認識をしていた。
- ・ 今回は、その中で一つなり二つなりテーマを設けて進めようという話だと理解しており、確実なものかということについては反響を見ての話になるかと思う。
- ・ 最後の29ページの中のステークホルダーとどう話をしていくかというところでは、モデル地区住民や関連団体の方からのフィードバックをどうもらうかが重要で、そこが浅いものになってしまうと、次にできるトライに深みがなくなってしまう。
- ・ 正解のない取組なので、チャレンジしてもらうことは良いと思うが、その後どのような反響を受けたのか、そのイベントに参加した人がどう感じたかというところを非常に重視しながら進めると、どういう形であっても進んでいくと考えている。

(会長)

- ・ 的確なコメントだったと思う。委員が企画に参加しようと思うかどうか。こういう工夫ができないか、こういうことができないかについて、色々ご意見をいただきたい。
- ・ 順番に意見をもらうのがいいかと思うので、順番にご意見をお願いしたい。

(委員)

- ・ はっきりと自分の中でイメージをつかめていないのが大きいですが、大学が関わっていくことになるだろうとは思っている。周南リビングラボは、大学で9・10月くらいに始まったと聞いているが、そこをどのようにスマートシティに活用していくのか聞いてみたい。

(事務局)

- ・ 周南リビングラボは、すでに9月から2回実施されている。授業・ゼミのスタイルで集まった学生が、身近な課題に対しプロトタイピングをするもので、昨年示された企画・設計・実証がすでに始まっている。
- ・ スマートシティ推進事業として掛け算していくなら、デジタルというところだと思うので、デジタルでデータをとった結果、こういうPDCAが回るというのを担当の先生と相談し、一緒にやろうというアラインができると良いという認識をしている。
- ・ 具体的にこういう話題をより深めるべきというのはここで議論してもらい、我々としてはそれを受けて実施していきたいと思っている。

(会長)

- ・ リビングラボという活動は、周南公立大学の活動の一部だろうが、これからデータを使って様々なことをやる学生が入学してくるので、みんなが参加できる枠組みは将来的な計画の中では重要だろうと思う。
- ・ 昨年度ワークショップに参加した学生も、データからというよりは、現場の活動から、こういうデータを取りたいというアイデアも出ていた。そうしたことをスマートシティの計画作りに盛り込めたら良いのではと思う。

(委員)

- ・ 11月26日～28日に開催されるイベントだが、開催日まで時間がなく、告知の方法やどこまでの人を対象としているか、周南だけなのか、遠石地区・周陽地区だけなのか、市民のみんなに案内するのかといったところを聞きたい。あと2週間しかなく、予定を入れている人もいると思う。
- ・ 私も資料を見て初めて知ったところもあるが、とりあえずやった、やったで終わらないようにしていただきたい。
- ・ 29ページのステークホルダーの巻き込みというところで、誘客面で外部事業者をと書いてあるが、周南公立大学の中で活動している他事業者もあるので、その辺りを考慮してはどうか。

(会長)

- ・ 事前の情報共有が市民目線でなされていないのではないかとするのは肝に銘じてほしい。我々自身も関係者なのでもっと接点を持っていかないといけないと思う。
- ・ 市民にコミットメントを、という話は事務局からもあったので、昨年度までの活動を含め、コミュニティ側で十分な周知を図ることが重要ではないだろうか。

- ・ 決めうちで今年度やるというところは良いが、様々な活動が地域であるので、それも整理して、取り込めるものを巻き込んで活動にできないかという指摘は納得できると思う。検討してほしい。

(委員)

- ・ イベントとして、資料だけを読んだらなるほどと思うが、チラシが来て参加するかと言われると微妙なところである。
- ・ イベントを開催することは良いと思うが、商工会議所として様々なイベントを企画したり関わったりする経験から、今回のイベントは開催目的が前面に押し出され過ぎており、集客に不安がある。データを集めるのであれば、まずは人を呼ばないといけないというのが前提としてあるのではないか。
- ・ 今回は日程に余裕もないが、今回開催したうえで、今後繰り返し行っていくことが必要ではないだろうか。
- ・ 周南緑地は、野犬の問題等、マイナスイメージが多い。そのイメージを払拭する意味では、イベントをやって実績を残すこと自体は良いことだと思う。ただ、開催の方法を検討し、様々な団体、企業を巻き込むことは必要ではないだろうか。

(会長)

- ・ 商工会議所は多くイベントをされているため、ヒアリングして取り込めたら良いのではないか。イベントの内容については、フードトラックなどの工夫も考えているようだが、呼び込みの工夫については、事務局として何か考えていたら共有してほしい。

(事務局)

- ・ 広報面に関しては、我々も日程等の関係で出遅れていることは認識している。大変ご迷惑をかけており、申し訳ない。ちょうど秋祭りの延期日程と重なるなどあり、日程変更が必要となってしまった。この会議の後で打ち合わせをし、早急に関係各所に案内するスケジュールになってしまっている。
- ・ 集客施策として具体的に実施を検討しているのは、先述の通り、団地やマンションの掲示。ポスティングも想定して動いている。事業者、会社経由での案内もする想定。実際の誘客は非常に重要だと思っているので、外部事業者の方と一緒にできればと思っている。
- ・ 一回やって終わりではなく、継続が重要であるのは同意である。具体的なところは検討中だが、SNS等でコミュニティ化し、継続的な取組としたい。

(会長)

- ・ 会社を通じた広報は事務局も頑張っているようなので、まずは回してみるということでもよろしくお願ひしたい。

(委員)

- ・ 仕事柄、70歳以上の高齢の方と話す機会が多く、地元で活動されている方もそのような方が多いが、コロナ禍になり、遠方にある家族と連絡を取るといったことで、スマートフォンの使い方やタブレットの使い方を学んでいこうと考えている方も見られる。デジタルツールに対する苦手意識はだんだん薄れつつあるのかなという実感がある。
- ・ 私として関心があるのが、情報格差をどう埋めるかというところ。色々な講座をやったりしているが、今のところはアナログな媒体を使った告知が多いのが現実。ただ、メールで送ってもらったほうが良いという人もいるので、広報の仕方・情報の伝え方も変わってきたなと感じてきている。
- ・ 個人的には、行政手続きがデジタル化すれば嬉しいが、市民がどれだけ市役所に用事があるかを考えた時に、そこまで頻繁に用事はないのかもしれない。
- ・ 市でキャッシュレス20%還元キャンペーンをした際に、使い方に関する相談会のチラシに関心を示していた人も多かった。そういうタイミングでスマホの使い方とか電子決済とかのハードルが徐々に下がるのかなと思っている。
- ・ 11月26日のイベントだが、アナログな方法でよければ周知できるので、言っただけであれば協力する。

(会長)

- ・ 高齢者は、スマホ一つとってもハードルが高い人も多いので、色々な機会を通じて、デジタルへの慣れを誘引する仕掛けを作ることは、周南市にとって重要である。計画作りでもそういう項目をぜひ入れていく。そのきっかけとして、今回高齢者向けのサービスがどの程度想定されているかはわからないが、そういうことを考えることが大事ではないかと思う。

(委員)

- ・ 周南緑地の体育施設の管理業務も行っているが、グラウンドについては先約が入っておりイベントに関連した予約は入っていなかったもので、グラウンドは使わずにされるイベントだろうと思っていた。
- ・ 体育協会は、スポーツ運動を主にする組織なので、他のイベントなどであれば、民間のスポーツ団体の方等と一緒に、教室やイベントをこれまでやってきた。

- ・ 今回のイベントでは、スタンプラリー、EVの試乗、飲食のスペース提供になっているが、デジタルを介したスポーツ系の体験ができるイベントがあれば、我々も関わりを持てたかな、と率直に思った。
- ・ フレンドパーク周辺でキッチンカー販売活動、屋内外でくつろげるオープンカフェや移動販売車を誘致につなげると25ページに書いてあり、23ページにはAIカメラを使った実験と書いてある。飲食スペースをAIカメラで撮影し、それをどういう実験に繋げるのか教えてほしい。

(会長)

- ・ オリンピックがあったこともあり、若い人も含めてスポーツに対する関心の出方が変わってきている。昨年度もスポーツ体験についてワークショップで意見が出ていた。
- ・ グラウンドの予約といった話もあったが、イベントについては、どういうスペースの使い方という企画があるのか、十分に連絡が入っていなかったのだろうか。まず、グラウンドをそもそも使うのか、事務局から回答がほしい。

(事務局)

- ・ 移動販売車を配置する各ポイント、フレンドパークとか「TO THE SKY」まわり等に関しての予約は既に入れている。おっしゃられるように、グラウンドは既に予約されているが、グラウンド利用者の集客を見込んでいる。
- ・ 昨年度の議論にも挙がっていたが、高齢者を含めた外出機会の創出が大事だと認識している。今回のイベントには、スポーツをしている人がさらにスポーツをする機会をとという取組はないが、先ほどの高齢者の話も含めて、外出機会の創出という目的での周南緑地での活動を想定しての設計となっている。
- ・ 告知については、我々もポスティングの話をしたように、デジタルだけでやるのはスマートシティではなく、デジタルとアナログの共存が重要だと考えている。具体的にはスマホだけでなく、一緒に地図を配るとか、パンフレットを配るとか、詳細は決まっていないが、そのような対応をする予定。

(会長)

- ・ 全体を通して、言いたいことがある方は発言をお願いしたい。

(オブザーバー)

- ・ 今回の実証イベントの中で、色々なデータを取るといった話があったかと思う。実証の中で何を見ていくかみたいなところは検討されているのかと思うが、住民の課題で、食べる場所が少ないというところでどういうデータを取り、どうい

う数値をどう活用していこうといったところを少し説明してもらえると理解しやすいのではないだろうか。

(事務局)

- ・ ウォーキングコース、歩きでの外出を促進したいと考えている。AIカメラは人の集まりの可視化に使う予定で、ウェルネス化、ホームタウン化の短期施策に挙げられていたので、まずはそれをやってみようとしている。
- ・ その実験を踏まえて、需給のマッチングにも活かせるのではないかと考えている。駅前でキッチンカーを出している業者に、イベント出店の声をかけているが、周南緑地で出店してどれだけ人が来るか、売上げが上がるのかという懸念がある。こういう人たちが来ているというデータが出せれば、出店合意に至りやすくなる。
- ・ 周南緑地でどのように人が移動するのかについて、市としてもデータを持っていない現状であり、スマートシティの取組で活用できないかということも考えている。
- ・ 住民への便益でいうと、キャッシュレス決済の話が出てきているが、決済だけでなく、いろいろなところにデジタルが出てくるパッケージの世界観が伝わるといいと思っている。

(オブザーバー)

- ・ イベント時の情報だけで対応できるものと、できないものがあるのかなと考えている。イベント開催時の人流は取得できるが、通常時の周南緑地公園の人流も含めてどう分析していくかという話になるのではないかと。取得方法やコスト、計測期間などの問題もあるが、取れるデータは取れるような形で検討してもらいたい。

(会長)

- ・ 取れるところは取れるようにというコメントがあったと思うが、プライバシーなど、様々な問題が関係する。スマートシティ推進協議会として取るのか、事務局が取るのか、周南市が取るのかについては、ちゃんと線をひいて、参加者に事前に許可を取ることは注意する必要がある。
- ・ 商工会議所の活動を含めて、いかにスマートシティに結びつけるか、高齢者のデジタル・ディバイドをどう解決するかなど、本日は様々な意見が出た。せっかく周南緑地をモデル地区にしているのだから、地の利を最大限活かす活動にすることが重要である。
- ・ やはりコミュニティが基本なので、コミュニティがどういうことを不便に思っているか、何をしたいと考えているかを解決でき、寄りそっていけるようなスマートシティであることが重要だと、今日の議論を聞いていて改めて思った。

- ・ 学生は、こうした新しいことに関しては、比較的バリアがない形で入ってくれるし、色々なワークショップでも、高齢者の方に垣根を越えて話しかける勇気も持っている。
- ・ ぜひオール周南で、今年度の計画づくりに一致団結してスタートしてもらえたら。事務局も、委員の方に積極的に相談して、計画づくりをうまく進めてもらいたい。
- ・ 議題は以上になるので、事務局に進行をお返す。

4. 閉会

(事務局)

- ・ この度は、第1弾の協働プログラムについて、色々と準備不足で、直前のご案内になってしまい、申し訳ない。
- ・ 第3回の協議会でも指摘があったが、ワークショップや住民の意見から離れていってしまっていないかという懸念があったかと思う。まだその懸念が払拭できておらず、実際に離れている部分も出てきてしまっているのではと感じた。
- ・ 我々周南市として進めていくスマートシティは、地域の住民・企業の困っていることをしっかり解決していくことだと思う。取組の中では、ワークショップで出た意見とのつなぎをどうするかが重要だと思っている。
- ・ ステークホルダーと一言で言うてしまうが、住民、学校関係の人、高齢者など、色々な立場の人がいるが、みんなが参加できるような取組になっていけばと思っている。
- ・ その辺りをもう一度しっかり意識し、今日の意見を踏まえて、軌道修正も必要になるかと思うが、次年度に向けてしっかり考えていきたい。引き続きご意見いただけますようよろしくお願いいたします。

(事務局)

- ・ 連絡事項をお伝えする。
- ・ 第1弾の協働プログラムが11月26日から28日までの3日間、周南緑地で開催予定である。
- ・ 第5回の周南市スマートシティ推進協議会については、令和5年1月開催予定で、正式な日時が決まり次第、連絡したいので、よろしくお願いいたします。
- ・ それでは以上をもちまして、第4回周南市スマートシティ推進協議会を閉会させていただきます。

以上